

(8) 底びき網主要対象種生態調査

予算

大阪府資源管理協議会委託事業

概要

府内の小型底びき網（石げた網）の重要漁獲対象種であり、近年不漁が続くシャコについて着底稚シャコ分布調査を行った。5月の採集個体数は直近2年間よりも多く、8月にも体長約50 mmの個体が多く採集された。11月も直近2年間よりも多く採集されたが、2月は直近2年間よりも少なかった。また、石げた網標本船の漁業日誌により、日別のシャコ漁獲量をモニタリングした。漁獲量が1 kgにも満たない日が長く続き、低調であった直近2年間のさらなる下回る結果となった。依然として厳しい資源状況が続いているが、5月から11月の分布調査で多く見られた個体群が漁獲に加入すれば漁獲量が上向く可能性も考えられる。

調査方法

2023年5月に大阪湾全域に設けた20定点（図1 黒丸・白丸、調査時水深8.6～46.4 m）で、2023年8月、11月、2024年2月には上記20定点のうち大阪湾東部海域の10定点（図1 白丸、調査時水深9.6～24.1 m）で小型底びき網の一種である石げた網（幅1.8 m）を使用し、シャコの採集を行った。石げた網には着底後間もないサイズ（体長約20 mm）のシャコも採集できるように、魚獲り部（網の最後部）に？網目の一片の長さが約6 mmのカバーネットを装着した。各点の調査では2丁の石げた網を曳網し、曳網時にはハンディ GPS で曳網距離を記録した。入網物は水産技術センターに持ち帰り、シャコを選別した後、個体数の計数および体長の測定を行った。各定点の採集個体数は曳網距離から10,000 m²あたりに換算した。また、石げた網標本船の漁業日誌データからシャコの日別漁獲量の変化を調査した。

調査結果

図2、3のとおり。

担当者

木村祐貴、山中智之、周藤大樹

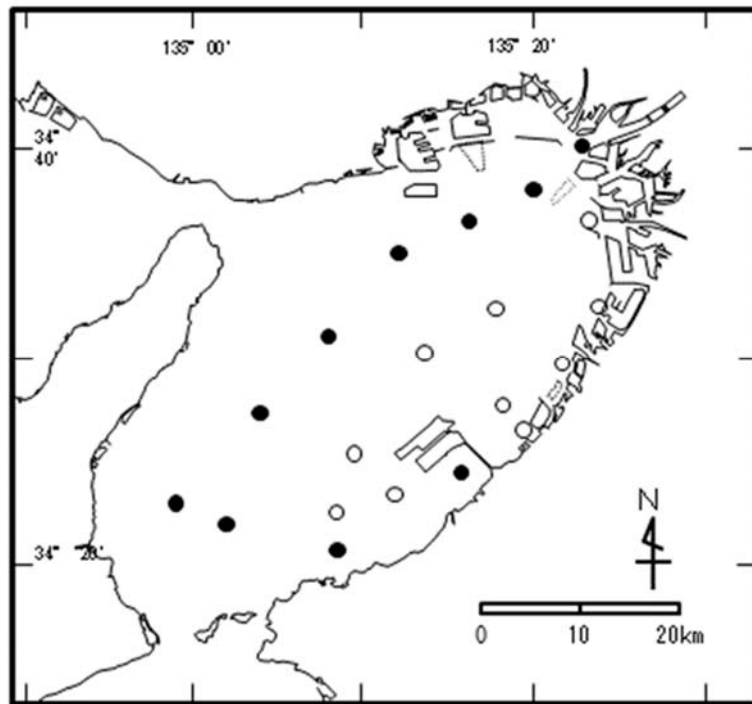


図 1 調査定点図

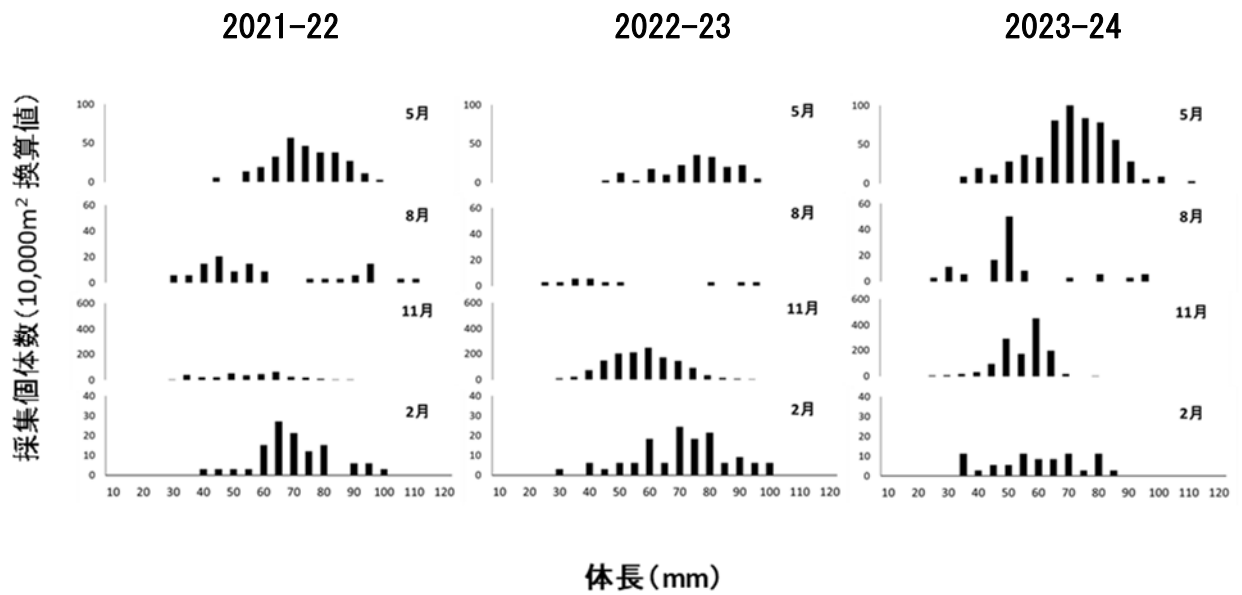


図 2 分布調査で採集されたシャコの体長組成

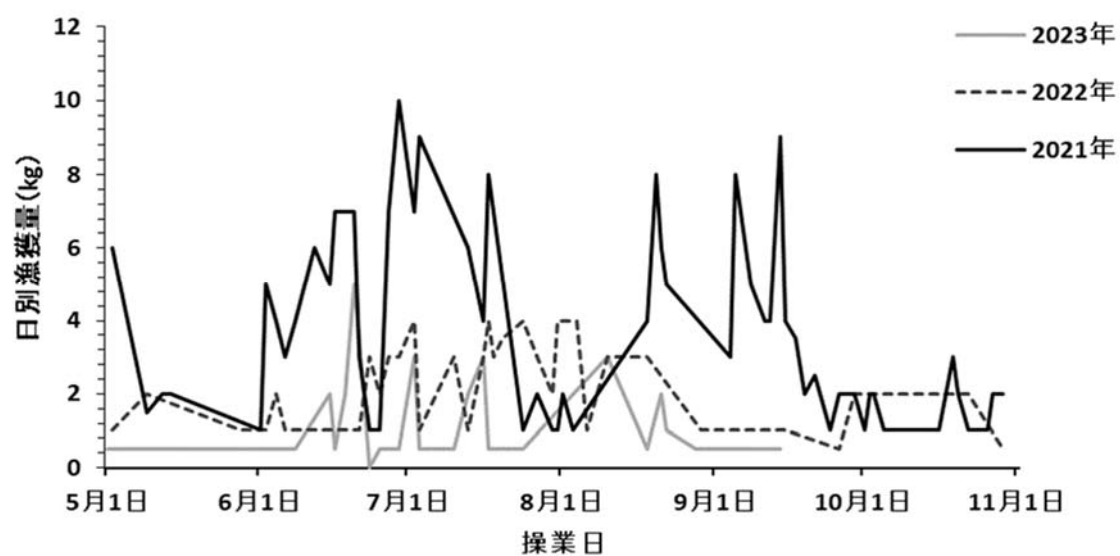


図3 石げた網標本船におけるシャコの日別漁獲量
(5月1日～10月31日)